□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名　やすらぎ荘　※

日付　平成19年2月2日
特定非営利活動法人
評価機関名　ライフサポート

評価調査員　在宅介護経験15年
評価調査員　ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

「昔は正月になると備中神楽を皆で楽しんだもんだ。見た事ないの？賑やかよ。見においでんせえ」「ずっと米を作っていた。牛を3～4頭飼っていた。昔は牛がいないと仕事にならなかった」「戦争中も米食べてた。麦なんて食べた事ない」食後皆が集まってお喋りが始まる。面会に来てた家族や私達も仲間入り、通りかかった職員も話の輪に入る。近隣出身者が多いので、話題の共通性もあり、話が弾む。利用者同士馴染みの関係が出来ていて、仲良しさんは長椅子にくっついて座る。男性や年長者を立てる昔ながらの風習も健在。97歳の最高齢女性利用者も92歳の男性最高齢者も、自分が一番偉いと威張っている。2人は互いにいつも張り合う。「耳が聞こえないくせに」と言われると「目が見えないくせに」とやり返す。聞いている皆は大笑い。「皆さんいつも一緒に過ごしています。部屋に帰るのは寝る時ぐらい。独りより誰かと居る方が楽しくて安心するみたいです」と管理者は言う。仲良しさんは一緒に入浴する事もあるそうだ。人生の先輩の利用者に若輩の管理者や職員は控え目に接し、目立たぬ様に支援できている。

人口の少ない山間部なので、色々問題はあると思う。しかしここには都市部にはない素朴な温かさがある。地域性を生かしたこの地に合ったホームができている。和気あいあいのびやかな利用者の笑顔を見て思った。「雪はこ～んなに積もるけれどスキーができるよ。又、おいでんせえ」「ありがとうございます」優しい誘いは心に沁みる。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

① 各部屋には和風庭園に出れる広縁がある。畳の居室と縁側の間に障子がある為かそれが分かっていない利用者も居る。障子を開けて広縁の椅子に座って日向ぼっこしたり、庭を見ると気持ち良さそう。掃き出しのガラス戸を開けて、どの部屋からも中庭に出れる。庭が皆の集まる場になるかも知れない。もっと有効利用して欲しい。

② 申し送りノートには、利用者の日常を伝えるる会話や行動が記録されている。素晴らしい生活史なのに、まとまりなく綴られているのが残念だ。他の記録類も、まとめて転記する等労力を要する作業があった。管理者、職員皆で記録類の書き方を相談して、もっと効率の良いやり方を検討して欲しい。申し送りノートを見ると、その人の様子や、気持ちが良く分かる。家族に見てもらえば、利用者と家族の絆を強めるきっかけになるかも知れぬ。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

もしも自分がグループホームに入居するとしたら、どんな事を考えるだろう？管理者と職員は、利用者の気持ちになって、共にホームの理念を考たそうだ。心・生活・趣味・食事・家族、それぞれの項目について、どんな事を思うか。元気で過ごしたい。命令されたくない。静かな環境が欲しい。自由にしたい。健康でいたい。自由に外に出たい。自分の思う様に食事をしたい。家族が来やすい所であって欲しい。いろんな意見が出た。それを基に理念ができた。「静かな環境の中で、本人の意思を尊重しながら、生活の質を向上し、自由・健康・安全な生活ができるホームを目指します」この理念実現に向けて、管理者と職員は日々努力している。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

備中町高齢者対策として、池や水車小屋等も周辺に配置したデイサービスと宿泊ができる町立施設をつくった。しかし、宿泊施設利用は無かった。そこで民泊施設部分をリニューアルしてこのホームが出来たそうだ。各部屋は流し、トイレ、洗面所完備。居室の畳の部屋の向こうには和風庭園が見える広縁がある。広縁の掃き戸からは庭にも出れる。部屋はゆったりしているので、家族も泊まれそうだ。中央の食堂の他に、皆が集まれる娯楽室もある。テーブルを囲んでソファに座ってテレビを見て寛げる。食堂とリビングルームが分かれているのも贅沢な造りだ。風呂場と廊下も広め。一段高い畳の間もあり、あちこちに利用者の居場所がいっぱいだ。町立施設を念頭に造られただけに周囲の景色も最高だ。きちんと整備された散歩コースを辿って、池の鯉に餌をやるのも楽しい。今まで多くのグループホームを見て来たが、こんなに恵まれた所は初めてだ。まるでどこかの保養所にでも来た様な気分になるホームだ。

Ⅲ ケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		○
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

昼食の汁物に入れる春菊をお椀に入れる人、ご飯をつぐ人、職員の味付けを味見して「ちょっと物足りないね」と調理する人、利用者はそれぞれ自分の出来る手伝いをする。洗い物が好きな利用者は、食後腕まくりして自分から食器洗いを引き受ける。「灯油が少なくなってるなあ」ストーブに灯油まで入れてくれる。廊下には皆で作った干し柿を吊るしている。比較的軽度の利用者が多いせいもあり、皆実によく働く。昔から米作りをしてきた人は働き者だ。作業服姿の70代の男性とホームの所長、何も知らぬ私には、正直なところ最初は同じように見えた。「どちらが利用者か職員かわからんでしょう」そう言って所長も笑う。のびやかで活気がある。利用者、職員、所長、管理者、それぞれの隔たりなく皆で自由にお喋りして、共に行動できているのが良い。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

担当制をとり、職員は受け持ちの利用者の日常を連絡ノートに記録し、全ての職員で情報を共有している。申し送りノートかと思って連絡ノートを見てびっくりした。その日その時利用者の言った事や行動を丁寧に書きとめ、やり取りを生の会話で綴っている。読むとそのシーンが目に浮かぶ。あれを個別にまとめれば立派なその人の人生史になりそうだ。「所長と、本にしたいなあと冗談言ったりしてます」と管理者は言う。ホームから家族に働きかけても、地理的要因もあり、家族からの面会は片寄りがあり、少ないのが悩みだと聞いた。グループホームは施設ではなく生活の場だ。預けたから家族は任せて安心ではなく、共に利用者を支える協力者であって欲しい。家族に利用者の日常生活の様子を知って、関心を持ってもらう為に、この記録を家族に見てもらってはどうだろう。本にしたい様なこの記録は、きっと家族の心に大きく訴える力があると思う。